

特別講演概要

演 題 「母国語で学ぶ自然科学」

講 師 2000年ノーベル化学賞受賞

筑波大学 名誉教授

白川 英樹 氏

講演内容

16年前の2000年10月10日にノーベル化学賞授賞の発表があり、その直後からメディアによる取材の嵐に巻き込まれた。欧米の雑誌記者から、「自然科学三賞の日本人受賞者数は欧米諸国と較べて極端に少ないといわれているが、アジア諸国の中では日本人が際立って多いのは何故か」という質問を受けた。数々受けた質問の中で16年経った今でも鮮明に覚えている。想定外の質問だったので答えに窮して、「他のアジア諸国と違って、日本では理科や自然科学は母国語である日本語で書かれている教科書を使い、日本語で学んでいるからではないか」と答えたが余り自信はなく、その後ずっとこの質問を反芻し続けて今日に至っている。考えの一端を披露してご議論に供したい。

経歴

1961年 東京工業大学工学部化学工学科卒業
1961～66年 東京工業大学大学院理工学研究科 化学工学専攻
1966年 工学博士（東京工業大学）
1966年 東京工業大学 資源化学研究所助手
1976年 ペンシルベニア大学博士研究員
1979年 筑波大学 助教授 物質工学系
1982年 筑波大学 教授 物質工学系
2000年 筑波大学退官 名誉教授

受賞

1983年 高分子学会賞（1982年度）：「ポリアセチレンに関する研究」
2000年 高分子科学功績賞（1999年度）：「導電性高分子の発見と開拓」
2000年 ノーベル化学賞：「導電性ポリマーの発見と開発」
2000年 文化勲章受賞ならびに文化功労者に選出
2000年 筑波大学名誉博士号
2001年 日本化学会特別顕彰